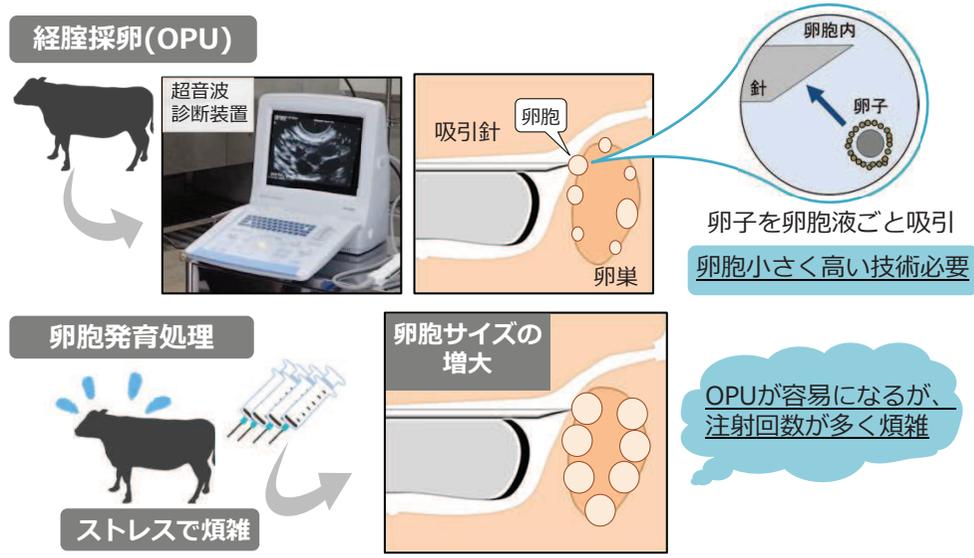


背景・目的

- 甲州牛増頭の要望に対し、牛を選ばず何度でも受精卵を作ることができる経膈採卵-体外受精技術が有効
- 経膈採卵は高度な技術が必要で、卵子採取が難しい
- このため当センターでは、卵子採取を容易にするため、性ホルモンを多数回投与することで卵胞を大きくできる卵胞発育処理技術を開発
- しかし、ホルモン注射回数が多く、牛への負担や作業の煩雑性等に対し、改善が求められている

→甲州牛増頭や牛群改良に有効な経膈採卵技術のさらなる活用を図るため、卵胞発育処理を省力化



研究内容

1~2年目

① 経膈採卵における卵胞発育処理の省力化試験 (R8~9)

黒毛和種経産牛で、性ホルモン製剤の投与方法を省力化した経膈採卵時の卵胞発育処理法を開発

注射回数の低減



3年目

② 未経産牛における卵胞発育処理の省力化試験 (R10)

未経産牛でも省力的な方法が応用可能かどうか検討

省力化OPU



期待される効果

- 高品質体外受精卵による甲州牛増頭
- 優秀な雌牛からの受精卵生産が促進され、牛群改良速度が向上
- 高価な黒毛和種子牛生産で酪農経営の所得向上

